

温かい恩返し 岳陽市からマスク 20,000 枚の支援

沼津市の友好都市中国湖南省岳陽市は、新型コロナウイルス感染症患者が最初に出たとされる湖北省武漢市からも近く、2020年1月21日に岳陽市内最初の感染者が確認されました。沼津市では、沼津国際交流協会が広く市民の皆さんへ募った支援金を活用し、岳陽市へN95マスクや防護服などの支援物資と支援金を贈りました。その後、岳陽市では感染者累計156名・死亡1名となり、最後の患者が退院した2020年3月8日以降は感染0を維持しています。

一方、世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の感染拡大は日本も例外ではなく、感染予防対策に欠かせないマスクなどの医療物資不足が沼津市でも続く中、一足先に状況が落ち着いた岳陽市より、沼津市へのマスク支援の申し出があり、2020年5月18日、岳陽市内の工場で生産されたサージカルマスク2万枚が沼津市に届きました。

受け取りにあたり、頼重秀一市長より、「35年の長きに渡り築いた沼津市の岳陽市の友好の絆は、この困難を乗り越え、より強固なものになると確信しています。岳陽市の皆様方の温かいお気持ちをしっかり受け止め、市民の安心安全の確保に努めてまいります。」と感謝の意が伝えられました。また、頼重市長は『長きに渡る友情と温かな支援に感謝します』とのメッセージを、同席した沼津国際交流協会の田中会長は『困った時に助け合えるのが真の友。再会を楽しみにしています』とのメッセージを掲げました。

同時に、友好都市提携25周年(平成22年)時に岳陽市より沼津市へ贈られた記念品である掛け軸についても、『海内存知己 天涯若比隣』は「心の知れた友がいれば 世界のどこにいても近しく感じる」の意で、互いに助け合う今の関係をまさしく体現していることから、10年前のこの贈り物に縁を感じますとの紹介がありました。

なお、岳陽市より寄付頂いたマスクは、市内医療機関や福祉施設にて、感染防止対策に活用する予定です。



岳陽市から届いたマスク2万枚と掛け軸



メッセージを掲げる頼重市長(左)と田中会長